

学校教育全般の充実と教育効果の向上のために

学校長のリーダーシップから始まった 学校支援ボランティア活動



西北地区

五所川原市立栄小学校 学校支援ボランティア隊

この取組を紹介したわけ

平成20年度より学校支援地域本部事業が始まり、全国各地の学校で活発に学校支援ボランティア活動が展開されています。この事業を推進することによって、学校と地域の協働による教育活動が可能となり、学校の活性化と地域の教育力の向上が期待されています。

五所川原市立栄小学校では、保護者による学校支援ボランティア活動が活発です。図書ボランティア、1年生の給食・筆順指導、校外学習の引率・安全サポート等様々な活動が行われています。

このように栄小学校で学校支援ボランティア活動の体制を確立することができたのは、校長先生がその必要性を強く意識し、リーダーシップを発揮して取り組んできたからなのです。

このような活動です

□ほった読み聞かせ

平成20年度は、学期1回、低中高学年ごとに分かれて行いました。



[低学年の様子]

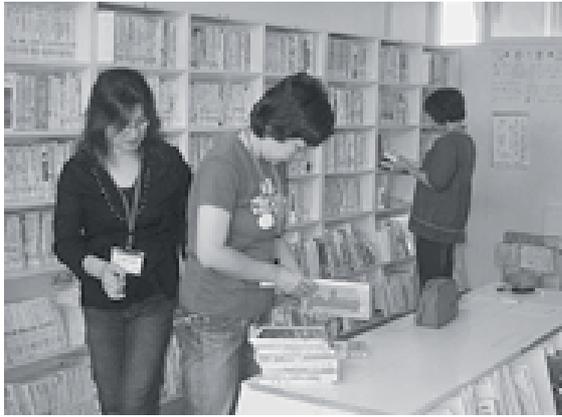


[中学年の様子]



[高学年の様子]

□図書室の整理整頓



□立佞武多踊り



□校外学習の引率補助



□1年生の給食指導



□1年生の筆順指導



西北地区

このように進めています

◇【学校支援ボランティア】の発足の経緯

①平成18年度・・・『学校ボランティア隊』を組織する

この学校ボランティア隊の目的は児童の登下校の安全を確保することで、隊員は保護者が19名で、学区老人クラブの方にも協力してもらいました。



学校教育全般の充実と教育効果の向上を目指し、教育活動そのものも対象



①平成19年4月6日（金）

『学校ボランティア隊』隊員を対象にした、『学校支援ボランティア』発足のための話し合いを行う。

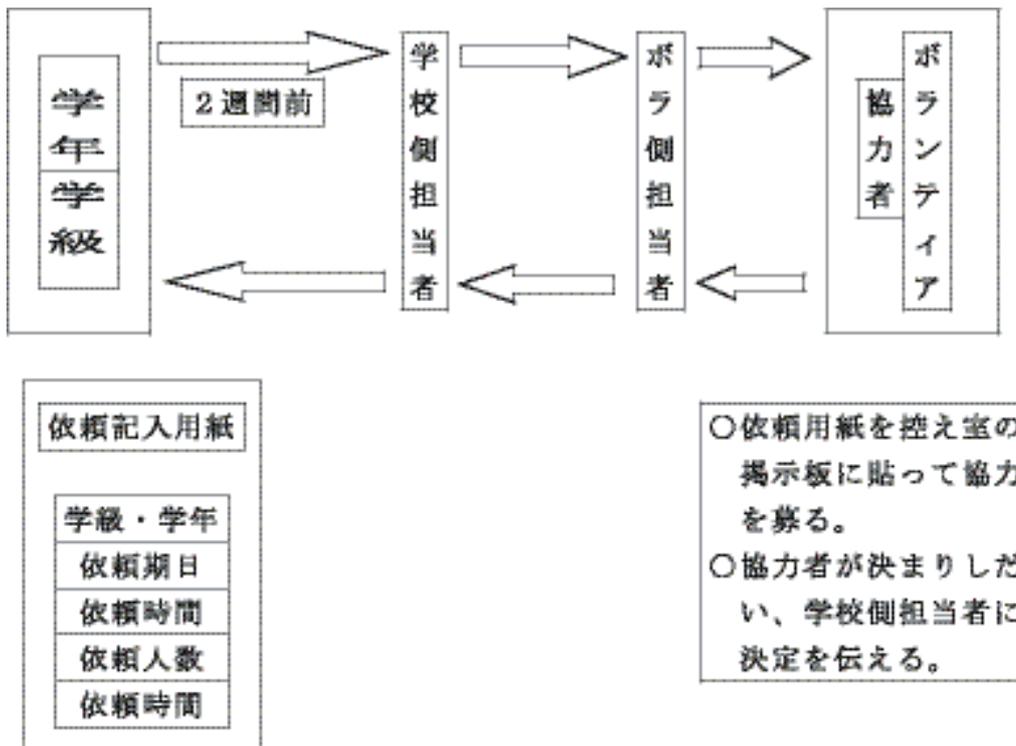
③平成19年4月9日（月）

『学校支援ボランティア』協力者の再募集

※『学校ボランティア隊』隊員に限定した募集に止める。

結果19名中17名が協力を申し出る。

◇学校支援ボランティアの組織と流れ（19年度）



●しかし、この流れだとうまくボランティア協力員に伝わらないこともありました。そこで、20年度は下記のように改良しました。

☆学校側担当者が各協力員に直接依頼文書を発送して協力を募る。

☆協力者は各自、都合にあわせて協力を申し出る。

☆学校側担当者は決定を学級・学年等に伝える。

ここが聞きたい 答えします (校長先生にインタビューしました)

Q： なぜ、学校支援ボランティアが必要だと思ったのですか。

A： 栄小学校は全校児童数が西北五地域で最も多い学校です。また、学級定員40名いっ
ぱいの学級もあります。ですから、先生一人だけの指導には限界があるため、一人一人
の子どもに目の行き届かない場面が増えてきます。学校教育全般の充実と教育効果の向
上のためには、是非、学校支援ボランティアの協力が必要と考えました。

Q： 先生方から学校支援ボランティアの方々への要望はたくさんあるのですか。

A： 初めはそれほど多くはありませんでしたが、先生方も次第にその効果がわかって要望
は増えてきています。

Q： 学校支援ボランティアの活動日数や延べ人数等を教えてください。

A： 平成19年度の全活動は以下の通りです。

活 動 内 容	延べ日数	延べ人数
新入生下校 (1年)	3	10
新入生給食 (1年)	7	42
学区探検 (3・4年)	4	21
家庭科実習 (5年)	7	41
図書整理	7	18
ビデオ撮影 (6年)	1	1
エプロン補修	8	43
読み聞かせ (全学年)	11	69
立佞武多踊り (6年)	6	6
合 計	54	251



西北
地区

この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

校長先生に成果と課題をお聞きしました。

【成果】 ☆子どもたちに、より豊かで多彩な教育環境を提供できた。

☆学校教育活動を充実させ、さらに円滑かつ効果的に進めることができた。

☆「地域に開かれた学校づくり」を可能にし、学校に対する理解と協力を得ることができた。

【課題】 ①ボランティア (人材) の確保と活動内容の拡大

- ・ 保護者に本校OB、地域住民を加えること
- ・ 人材バンクリストの作成
- ・ 特別支援教育ボランティアが必要

②学校側コーディネーターの育成

- ・ 校長リーダー型の限界
- ・ 校務分掌への位置づけ

③教職員の意識改革

- ・ 学年、学級からのニーズがなければ活動が行われない。

④その他

- ・ 活動費
- ・ ボランティアルーム

不審者から子どもたちを守るために

三輪小学校下校見守り隊

下校時の子どもたちの安心・安全を
確保するために



西北
地区

五所川原市立三輪小学校 1・2年生の保護者 下校隊

この取組を紹介したわけ

五所川原市立三輪小学校では、平成18年度から下校時の子どもたちの安心・安全を確保するために下校見守り隊を組織しました。

昨今、不審者によって幼い子どもが事件に巻き込まれるという報道が毎日のように聞こえてきます。子どもを持つ家庭や学校は「子どもが被害にあわないかとても心配だ。」「本当に物騒な世の中になった。」と、心配はつきません。

そこで、当時の校長先生が、学校だけではこのことに十分に対応できないという考えから、P T Aに呼びかけてできあがったのが、三輪小学校下校見守り隊です。

この見守り隊の活動の甲斐あって、子どもたちは安心して家に帰ることができています。(この活動により、平成20年1月8日に、五所川原警察署より感謝状がおくられています。)

このような活動です

では、実際にどのように子どもたちの下校を支援しているのかを紹介します。

(P T A安全部長の佐々木さんが作成した家庭への文書)

1、2年生の保護者 各位

三輪小学校P T A

会 長 山 田 善 仁

安全部長 佐々木 百香子

三輪小学校

校 長 荒 谷 正 裕

『下校見守り隊』について

先日、子どもたちの下校時の安全を見守っていただける方を募集したところ、下記の方が応募して下さいました。ありがとうございました。



つきましては、『下校見守り隊』の活動は、次のように考えていますので、どうかご理解のうえご協力をよろしくお願いします。

記

1、隊員名

形態1・・・自宅近くでの出迎え

形態2・・・学校近くまでの出迎え

形態3・・・バス停近くでの出迎え

	形態	地区名	学年 組	児童氏名	協力者	備考
1	1	虫 流	1年1組			火曜日だけ
2	2	稲 葉	1年1組			
3	1	虫 流	1年2組			
4	2	鶴が沼	1年2組			みなみ三輪団地
5	3	梅 田	2年1組			梅田保育所前
6	1	虫 流	2年1組			
7	1	榊 森	2年2組			
8	1	七つ館	2年2組			七つ館バス停近

☆目印に『みまもり隊』の腕章をつけます。(都合によりつけてないときもあります)

腕章は近日中に子どもさんを通して配布します。

☆『お帰りなさい』『気をつけて帰るんだよ』などの言葉がけをするときもあります。子どもたちには不審者とは思わずに、『ただ今』とか『こんにちは』とか『きょうなら』などのあいさつをお願いしたいものです。

☆見守り隊は、それぞれの事情がありますので、活動できるときだけで結構ですというお願いをしています。できるだけつきますが、事情によっては休む日もありますのでご了承ください。

2、1・2年生の下校時間

		月	火	水	木	金
1年	授業時間	4	5	4	5	5
	下校予定時刻	13:10頃	14:50頃	13:10頃	14:50頃	14:50頃
2年	授業時間	5	5	4	5	5
	下校予定時刻	14:50頃	14:50頃	13:10頃	14:50頃	14:50頃

☆1・2年生の下校時刻は原則上記のようになっていますが、行事等で変更もあります。そのため、①1・2年生の下校予定表を毎月配布します。

②行事等で特別な変更がある場合は、チラシを配布します。

③急な変更がある場合は、学年だよりや連絡帳でお知らせします。

ので、配布物によく目を通してください。また、お子さんとよく話し合ってください。

見守り隊を組織しましたが、昨今はどこに危険が迫っているかわからない時代です。学校、保護者、地域が一体となって子どもの安全を守っていきたくて思っていますので、皆様のご協力、よろしくお願いします。

☆学校では子どもたちに、不審者に対して『いか の お す し』ということで指導していますので、家庭でも話題にして下さい。

- ①知らない人について いかない
- ②声をかけられても車には のらない
- ③知らない人につれていかれそうになったら おおごえを
- ④知らない人に声をかけられたり、追いかけられたら すぐになげる
- ⑤こわいことがあったり、見たりしたら、すぐに大人に しらせる

ここが聞きたい お答えします

Q： 毎日活動しているのですか。

A： 子どもたちの安全のためには、学校のある日は毎日やる必要がありますが、見守り隊のメンバーが活動できる時だけやることにしています。基本的には毎日活動のできる人です。

Q： 先生方もいっしょに活動しているのですか。

A： 先生方もいっしょに活動するときもありますが、その日によっては見守り隊のメンバーだけのときもあります。

Q： 感謝状をもらったいきさつを教えてください。

A： あるときの下校時、腕章をつけて見守り隊の活動をしていると、偶然それを駐在さんが見ていました。そのとき駐在さんとの会話の中で、見守り隊のことを説明したわけですが、その後、駐在さんがこのことを五所川原警察署に紹介してくれて感謝状をいただくことになったのです。



これまでのみちのり

この取り組みの始まった平成18年度は、全国的に、不審者により子どもが事件等に巻き込まれることが非常に多くなった時期で、ここ三輪小学校区でも不審者出没の情報が時々出ていました。

そこで、このことについては学校だけではとても対応しきれないと当時の校長先生が判断し、PTA安全部会長の佐々木さんに相談したのが始まりです。下校支援の保護者を募集するための文書は佐々木さんが作成し、取りまとめは校長先生が行いました。発足時は13名



で、腕章の他に『三輪小学校見守り隊』と書かれた車につけるプレート（不審者に対するアピールを目的に）も全PTA会員に作成配布しました。当初は通学路にいた工事関係者から、「過保護だ」と心ない言葉を投げつけられたりしていやな思いもしましたが、子どもたちの元気な笑顔と他の保護者の方々からの感謝の言葉が励みになりました。



この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

子どもたちの安心安全の確保はもちろんですが、この活動を続けていくうちに、たくさんのメリットがあることに気づいたと佐々木さんはおっしゃっています。

子どもといっしょに下校することにより、子どもの目線による通学路の危険箇所や死角がわかり、学校と共通理解しながらその対策を講じることができるようになったこと、自分の子ども以外のたくさん子どもたちとふれあいが生まれたこと、あまり話をしたことのなかった親同士のコミュニケーションが深まったことなどです。



三輪小学校は、平成20年度学校支援地域本部事業の3次募集の申請をして、安全部長の佐々木さんが学校支援コーディネーターとなりました。今後は、見守り隊はもちろん、様々な形の学校支援ボランティア活動が広がっていくのではないのでしょうか。

お母さんたちでつくった 読み聞かせグループ

胡小図書ボランティア「くるりん」の活動



西北
地区

鶴田町立胡桃館小学校 図書ボランティア「くるりん」

この取組を紹介したわけ

読み聞かせの活動をしている方々と話をしていると、「もっと学校で読み聞かせ活動をしてみたい、学校の先生方と交流をもちたい。」「しかし、どうも学校は敷居が高くて、なかなか入っていけない。」ということをよく聞きます。

この鶴田町立胡桃館小学校の図書ボランティア「くるりん」は、保護者で結成した組織です。図書ボランティアですから、図書の整理、子どもの読書のために推薦したい図書コーナーの設置、読み聞かせボランティア等の活動をしているのですが、何と言っても特徴的なのは、学校の図書教育担当の佐々木先生が保護者に呼びかけてできたグループだということです。

このような活動です

図書ボランティア「くるりん」のメンバーは4名で、全員が児童の母親です。

具体的な活動の中身は、

- ・新刊図書の受け入れ作業
- ・おすすめの本のコーナー設置
- ・お話集会の準備、企画（読み聞かせ）

です。

お話集会について詳しく紹介します。

お話集会とは読み聞かせボランティアのことで、毎学期1回行っています。「くるりん」の4名のメンバーは日中は仕事があるために、読み聞かせの練習をしたり、小道具を作ったりの準備はすべて夜に学校でやります。集まる回数は、1回の読み聞かせにつき3～4回です。



○平成20年度1学期のお話集会は

- ・期 日 7月17日(木)
- ・高学年(10:20～10:40)
☆ブラックシアター
「アラジンと魔法のランプ」
★言葉遊び「外来語辞典」

- ・場 所 図書室
- 低学年(10:40～11:00)
☆ブラックシアター
「アラジンと魔法のランプ」
★読み聞かせ「へんしんマラソン」



[前日の準備練習の様子]



○読み聞かせ活動についての「くるりん」のメンバーの声

『子どもたちとのコミュニケーションが以前よりとれるようになり、子どもたちの笑顔がとてうれしいです。』

『子どもたちが喜んで笑顔を見せてくれますし、本の楽しさを私自身が感じるようになりました。』

『思った以上に子どもたちの反応がよくて驚きました。本の整理・修理等も楽しんでやっています。』



[お話集会の様子]



[子ども達の様子]

○2学期のお話集会は12月18日に行いました。

サンシャインスクールくるみ（胡桃館小学校区の放課後児童クラブ）の成田せつ子先生に読み聞かせをやってもらいました。

「くるりん」のメンバー以外の方に読み聞かせをやってもらうのは初めてなこともあり、子どもたちにとっては新鮮な演出となりました。また、このように他の読み聞かせ活動者との交流は「くるりん」にとっても刺激になり、読み聞かせ技能の向上にもつながります。



このように進めています

「くるりん」の活動（読み聞かせ、図書の整理、おすすめの本コーナーの設置）は胡小図書ボランティアだよりを通して進めています。



西北地区

胡小図書ボランティアだより

くるりん

H20.9.24 第3

2学期が始まり約1ヶ月がたちました。子どもたちがいろいろな行事を体験しながら、たくさんのことを学んでいる様子が見られます。そろそろ読書の秋。お気に入りの本からも学べるものがたくさんあると思いますよ。

1学期のお話集会では、暑い中子どもたちがとても上手にお話を聞いてくれました！

○2年佐藤駿君の感想

お話をびっくりしたことがあります。「アラジンとまほうのランプってなんだろう。」とおもってむらさき色の光を見たら、アラジンが光って色がとてもきれいでした。

もっともつづきを見たいです。

○5年工藤知香さんの感想

フラクシアターを見てその絵がとてもきれいでびっくりしました。アラジンとまほうのランプの世界に入ったような気がしました。最後の言葉遊びがとてもおもしろかったです。くるりんの人たちがゆっくり話していたので聞きやすかったです。

よく短時間で覚えられたと思いました。

夏休み中の購入した本の紹介

○若おかみは小学生
—花の湯温泉ストーリー—11

○ハリーポッターと死の秘宝

○語りつぎお話絵本
せんそうってなんだったの？
(全8巻)

○発展学習・自由研究
アイデア101(全8巻)

○毎朝5分の英語で脳元気ゲーム(全5巻)

次回の“くるりん”

日時—10月2日(木)

19:00~20:00

活動内容—2学期のくるりんの活動について

ここが聞きたい 答えします (佐々木先生にインタビューしました)

Q： 保護者を巻き込んで読み聞かせ活動をしようと思ったのはなぜですか？

A： 研修会等でパネルシアターの上演を見たり、他地域の方々による読み聞かせ会に参加して、本校でもやれたらいいなと思ったのがきっかけです。また、自分が担任する子どもの保護者の中に、同じ考えを持って一緒に活動してくれる方がいてくれたことも大きかったと思います。

Q： 読み聞かせ集会の企画はどのようにして決めるのですか？

A： 集まる機会もそれほど多くはないので、内容の選定は私がほとんどやっています。そして集まった時に役割分担して、各自家で練習してくるという形をとっています。

Q： ブラックシアターの道具や大型絵本の購入費はどこから出しているのですか？

A： 町の助成金で買いました。

これまでのみちのり

この取組ができるようになったのは、「子どもたちにもっと本に興味を持ってもらえたら」という佐々木先生の願いと、その時に偶然にも一緒に活動してくれる気の合う仲間が保護者の中にいたからです。

図書ボランティアのメンバーを募集したところ、今年は4名となったそうです。自分の子どもの卒業との関係で昨年度のメンバーとは1名入れ替わっています。6年前からこの活動は続いているのですが、人数は毎年2～5名の少数精鋭となっています。佐々木先生は「やってみたいという思いはあっても忙しくてなかなか・・・という方がたくさんいると思います。できる人が2人でも集まったらやりましょうか。」ぐらいの気楽な感じで肩肘張らずにやっていきたいということでした。

この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

学校は外から見るととても忙しいところです。スケジュールも分刻みで、先生方の中には休み時間にゆっくりお茶を飲むという時間さえとれない人もいます。ですから、新刊図書が入ったりしてもなかなか整理できずに、それを子どもたちに提供するのが遅れたりすることもあるのです。

そんなときには「くるりん」のような図書ボランティアの活動は学校にとってとてもありがたいことです。また、「保護者が一緒に読み聞かせをやってくれる。本の楽しさを広めてくれるのに力を貸してくれることは、きっと子どもたちにとって効果がある。」と佐々木先生はおっしゃっています。

「くるりん」のメンバーは

- ・もう少し読み聞かせの回数を増やしたい
- ・創意工夫してもっと楽しいお話集会にしたい
- ・他校のボランティアの方々や色々な方々と交流したいなどの希望もあります。

子どもたちがもっと本好きになってくれるように、本に興味を持ってくれるようにという願いを持ち、子どもたちの笑顔に励まされながら、今後も活動が続いていくことと思います。





すべてのクラブ活動を地域の ゲストティーチャーで

地域の人材を活用してクラブ活動の充実を図る



西北地区

板柳町立板柳東小学校 4・5・6年 クラブ活動

この取組を紹介したわけ

学校の授業で、保護者や地域の方にゲストティーチャーとして協力してもらう取組は多くの学校で行われています。しかし、特別活動のクラブ全てにおいて、地域のゲストティーチャーが中心となって活動している学校は、ごく少数に違いありません。

ここ板柳東小学校では、授業の充実と地域の人とのふれあいを深めることを目指して、クラブ活動を中心に地域との協働による教育活動を進めています。

この取組についての詳しい内容やそれが可能となった要因、きっかけなどについて紹介します。

このような活動です

【お話クラブ】

読み聞かせに使うパネルシアターの作品づくりを中心に活動しています。全校集会で発表できるようにがんばっています。



[お話クラブの様子]

【裂き織りクラブ】

あまった布を使って新しく布を作るいわゆるリサイクル活動です。ゲストティーチャー所有の機織り機を使ってできた布はコースター、テーブルクロス、小物入れなどの作品に仕上げます。



[裂き織りクラブの様子]

【手芸クラブ】

糸を使ってマフラーなどを編む活動です。



【踊りクラブ】

全国的にも有名になった「よさこいソーラン」を踊る活動です。学習発表会での発表に向けて、みんな熱心に練習しています。



【お囃子クラブ】

本校学区の五林平地区の伝統芸能として継承されている「太刀振り舞」という踊りのお囃子の練習をしています。太刀振り保存会の方々と一緒に学習発表会で発表しています。



【お花クラブ】

生け花をしています。児童の自宅の花壇から持ってきた花や、野に咲いている季節の花を利用しているため経費はほとんどかかりません。また、廃品や和紙を利用し児童オリジナルの花瓶も作っています。



【チャンバラクラブ】

軽スポーツの「スポーツチャンバラ」という競技を練習しています。



西北地区

ここが聞きたい お答えします

Q： クラブ活動を指導してくれる地域の人をどのように探したのですか。

A： 当時の教頭先生が、PTAの集まりの時や教育委員会から「地域の方々にクラブ活動の時、自分の特技等を子どもたちに指導できる人」という視点で情報を提供してもらって探しました。中には、〇〇を子どもたちに教えてみたいと自分から申し出てくる人もいました。

Q： ゲストティーチャーはすべて学区の人なのですか。

A： 『自分たちの学区だけでなく、他の地域の方々にも来てもらっています。』『すべての子どもが興味関心を持って取り組むことができ、しかもクラブ活動のねらいを達成するためには、できるだけ多くの方に指導していただきたい。』ということでした。(現在、学区外で協力していただいているのは、以前開設していた地域子ども教室で、色々な体験活動を指導してくれた方などです。)

Q： 子どもへの指導は、すべて地域のゲストティーチャーにまかせているのですか。

A： どのクラブも担当として先生方がついていますが、内容はすべてゲストティーチャーにまかせています。先生方の役目は、ゲストティーチャーが指導しやすいように生徒指導面の配慮をするということです。この役割分担がしっかりしているため、活動は充実しています。

Q： ゲストティーチャーへの謝礼などはどうなっているのですか。

A： 平成17・18年度は板柳東小学校は「学校と地域の協働による教育活動研究委託事業」を実施していたこともあり、その予算の中で謝礼を出すことができましたが、現在の「学校支援地域本部事業」では、それができません。ですから、交通費も含めてすべて無報酬です。しかし、ゲストティーチャーの方々はいつも『板柳東小学校の子どもたちはいい子どもばかりで、クラブを教えることがとても楽しい。そして、何よりも子どもたちの喜ぶ顔が一番の報酬です。』と話してくれます。

これまでのみちのり



当時からその体制もできていたということでした。

また、委託事業の指定を受けたこともきっかけとなったようです。当時の教頭先生がある事例集を読んで、『これは本校でもできそうだ。』と思ったことからスタートしました。

当時から板柳東小学校では、保護者や地域に信頼される学校にするためには地域の教育力を学校に生かすことが必要だと強く感じていました。そして、地域の方々の協力を得ることによって、学校の先生だけでは決してできないようなおもしろい体験活動が可能になり、より効果的な教育活動が展開できます。さらに、ここ板柳東小学校学区の方々には、学校に協力したいという意識が強く、

クラブのゲストティーチャーとして実際に指導できる人を探すことは、それほど難しくはありませんでした。なぜなら、地域の中には『学校の子どもたちに、こんなことを教えてみたい。』という思いの人が多く、学校側には学校に地域の教育力を取り入れていきたいという願いがあり、お互いの要求がマッチしていたからです。

この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

【成果】

- ・平成17年度は初めての取組だったので不安もありましたが、慣れるにつれて活動も効率よく進んでいます。
- ・子どもたちは、地域の方が教えてくれることによって、授業に対する意欲・やる気が育ってきています。
- ・子どもたちは地域の誰とでも元気なあいさつをかわすことができるようになり、学校外でも地域の人とのふれあいが深まっています。
- ・子どもたちができばえの良い作品を仕上げるできるようになりました。
- ・ゲストティーチャーの提案を学校が受け入れることで、活動内容をより充実させることができました。



【課題】

- ・原材料費がゲストティーチャーの寄付によるところが大きく、また、用具も借りなければ活動できないものもあります。
- ・最低でも交通費ぐらいは出したいと思います。
- ・ボランティアとして携わる人に、学校の組織やルールを学ぶ機会を設定できればいいなと思っています。

地域には、クラブ活動の指導のできる方ややってみたいと思っている方がまだまだいるでしょう。しかし、板柳東小学校も少子化により児童数が減少しています。そのため、これ以上クラブ数を増やすと、実施できないクラブも出てくるので、それは難しいようです。

宮崎校長先生は

『学校支援ボランティア活動により、地域の方々が子ども達と学校を常に気にかけてくれる気運が生まれています。また、学校外でも子ども達に声をかけてくれる人も増え、結果として、子どもの安全安心に大きな問題となっている不審者対策にもつながっているのではないかと感じています。』

『学校の中に、学校支援ボランティアの方々や地域の方々の集まる場所があったらいいのではないかと。そして、今後はクラブ活動だけでなく、他の教育活動についても地域の方々の協力を得ていきたいと考えています。』

と語っておられました。



西北
地区

総合的な学習の時間と関連して、 地引き網体験をやりました

西海小自然塾による 学校支援ボランティア活動



西北地区

鱒ヶ沢町立西海小学校 西海小自然塾による学校支援ボランティア活動

この取組を紹介したわけ

地引き網体験の楽しさは、網を引いている時「どれぐらい魚が入っているかな。大きな魚がいるかな。」と大きくふくらむ期待と、引いた後、網の中で魚がピチピチはねている様子（時に巨大な魚もいたりして）を見たときの感動にあります。今では、海のある地域に住んでいても、地引き網を体験したことのある人はそれほどいないかもしれません。

鱒ヶ沢町立西海小学校の5年生が総合的な学習「ふるさと学習」の一環として、実際に地引き網の体験をすることができました。このことを可能にしたのは、何と言っても西海小自然塾塾長の菊谷さんの存在です。

菊谷さんの子どもや学校に対する思いを交えながら、地引き網体験と西海小自然塾とは何かについて紹介します。

このような活動です

以下は「西海小自然塾」からのお知らせです。

「地引き網（じびきあみ）を引いてみよう」についてお知らせします。

9月6日（土）

学校玄関前に9：00までにあつまれ！

もちもの

200円（ひとりあたり200円だよ）・のみもの
軍手（ぐんて）・タオル・ながぐつ・着がえ など



スケジュール

※時間は大まかな目安です

- ①9：00頃 学校出発 海へ移動します（車に乗り合い）
- ②9：30～11：30頃 地引き網をセットして魚とりにチャレンジ！
- ③12：00頃 学校に戻って解散です

保護者の方へ

- 今回は、5年生の“ふるさと学習”を兼ねていますので、5年生も参加します。
 - 悪天の場合は中止にしますので、各自の判断で集合してください。
 - 今年の自然塾は低学年が多いです。危険防止のために現場で監視して下さる保護者大歓迎です。これを機会に一緒に楽しみましょう。車での移動、地引き網の手伝いや監視などのご協力をお願いします。
 - 怪我等については自己責任をお願いします。ご不満の方は参加させないようにしてください。
- ※特に1、2年生はなるべく保護者同伴をお願いします。
- ※基本的に学校解散です。



このように進めています 「西海小自然塾」 についての菊谷さんのお話

◇「西海小自然塾」って何。

- ・鱈ヶ沢町の西海小学校の中でこっそり行っている活動です
- ・月1回程度の「自然活動や体験」を行っています
- ・塾長は私（菊谷尚久）、勝手に塾長と名乗ってはいるのですが組織は謎です

◇基本的スタンス

- ・子どもたちを外に引っ張り出そう
- ・親が面白いことはきっと子どもたちも面白いはず、何でもやってみよう
- ・自分が今まで面白かったこと、面白そうなことを一緒に体験しよう
- ・子どもたちに何か残ることを期待しよう

◇このように進めています

- ・募集は年度始め（4月下旬）で、対象は児童全員
- ・月1回第3土曜日に活動しています（でもいいかげん）
- ・一応、年間計画もあります（でもいいかげん）
- ・参加は強制ではありません。自分の判断で、準備は最小限です。
- ・基本的には無料（今までの最高は200円）

◇塾メニュー

魚釣りをしよう

生干しイカをつくろう

サケの解剖とチャンチャン焼き



□ホタテとウニの解剖



□バナナでクギを打とう



□餅をついて正月をむかえよう



□ジャンボシャボン玉をつくろう



□イカ釣り体験航海



□サケの採卵体験



など、まだまだたくさんあります。

ここが聞きたい 答えします (菊谷さんにインタビューしました)



Q： 地引き網の経費はどうなっているのですか。

A： 子ども一人当たり200円徴収しました。

Q： 地引き網を行うにあたっての地域の協力体制はどうなっているのですか。

A： 網は私の知り合いの漁師さんから借りました。また、網を設置するときに必要な船は、鯉ヶ沢町で毎年行われているトライアスロン大会関係の方々に出してもらい

ました。実は、私は白神杯トライアスロン大会の事務局なので、これらの人たちに声をかけると快く引き受けてくれるのです。

Q： 西海小自然塾はどのようにしてできたのですか。

A： 平成12年度(長男2年生)のとき、学校にサケの卵を持参し、教室での飼育を提案したところ、担任の先生に「せっかくだから、サケの話をして？」と逆に頼まれてしまいました。結局、全学年にそのサケの話と飼育が拡大したのです。そのことがきっかけで自然塾の構想が生まれました。

西海小の子ども達は周りには自然がいっぱいあるのに、ゲームで遊ぶことが多いのか、なかなか外に出ようとはしません。私はそんな子どもたちに、自然の中で遊ぶ楽しさを



知ってもらいたいものだと常日頃考えていました。そして、学校に自然塾の構想を話し、やってみたいと提案したところ、あっさりと受け入れられてスタートしました。

この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

菊谷さんの悩みとその解決

- | | | |
|--------------|---|----------------|
| 援助者の確保をどうするか | → | うまく保護者を使う工夫をする |
| 資金がない | → | できることをやればいい |
| メニューのマンネリ化 | → | それはそれでいいか |

菊谷さんは塾長でありながらPTA会長でもあり野球部のコーチでもあります。そして、年2回ほど西海小で読み聞かせボランティアまでやっています。仕事は、県水産総合研究センター内水面研究所に勤務しているのですが、何とそこは十和田市です。遠方にもかかわらず、なぜこんなにもボランティア活動ができるのかは、菊谷さんの熱意と何よりも自分の活動を楽しんでいるからに他なりません。

今後は、

- 自分の子どもが卒業しても自然塾を続けていきたいな。
- NPO法人の話もあるが... もっと気楽にやっていきたいな。
- もっと学校で私のことを利用して欲しいな。

『子どもたちに何かが残ることを期待して、いや、自分の楽しみのために、今後もより活発に学校や子どもたちとかかわっていかうと思います』



[液体窒素を使って]



[生干しイカづくり]

